

教授がウクライナ物語を疑ったために政府から弾圧される

RT

March 22, 2022



ウクライナ、マリウポリの破壊された劇場、2022年3月18日

あるスコットランドの教授が、マリウポリの劇場の爆撃は「やらせ」だと主張する論文を公表したために、弾圧された。

エディンバラ大学教授 Tim Hayward は、ウクライナのマリウポリ市の劇場の爆撃は、ウクライナのナショナリストによる「やらせ」の可能性があるとする論文を公表したために、メディアによって叩かれている。ヘイワード教授の疑念は、すでに教育長官 Nadhim Zahawi に届き、彼は、このような間違った考えは「厳重取り締まり」(crackdown) すると約束した。

ヘイワードは日曜日、左翼ニュース紙の Grayzone にある論文を載せた。ウクライナのマリウポリ市の目撃者の話を引用しながら、この記事は、ウクライナの Azov 戦士たち——かつて西側メディアや国会議員によって「ネオナチ」と呼ばれた——が、マリウポリの劇場で、市民たちの背後に隠れ潜み、ロシア軍がこのウクライナの都市に入ってきたとき、このビルを爆破したと言っている。

<https://thegrayzone.com/2022/03/18/bombing-mariupol-theater-ukrainian-azov-nato-intervention/>

<https://thehill.com/policy/defense/380483-congress-bans-arms-to-controversial-ukrainian-militia-linked-to-neo-nazis>

アゾフ軍と、この過激派隊につながったジャーナリストたちは、ロシアがこのビルを爆撃したと非難し、この事件を利用して、ロシアに対する西側の介入を呼びかけた。米大統領ジョー・バイデンは、これに反応し、ロシア大統領ウラジミール・プーチンを「戦争犯罪人」と呼び、アメリカの両党とヨーロッパの政治家は——戦闘機を含めて——ウクライナへの軍事援助を要請した。



市民たちは、閉じ込められて、このマリウポリの劇場爆破によって殺された可能性がある。

しかし劇場が爆撃されていることを示すビデは存在せず、ロシアはこのビルの攻撃を否定し、これが「攻撃の対象として考えられたことはない」と公言した。そこで使われたとされる兵器や、市民の犠牲者の有無については、これ以上、手掛かりはない。

https://tass.com/world/1423275?utm_source=google.com&utm_medium=organic&utm_campaign=google.com&utm_referrer=google.com

にもかかわらずヘイワードは、この問題を取り上げたことで同僚に非難された。タイムズ紙の火曜日の記事で、「プロパガンダを広めた」と彼を非難した Dr. Aliaksandr Herasimenka は、オックスフォード大学の「ニセ報道」研究者だが、この人は、ウクライナの公的物語を批判する報告を読むときは「我々は注意深くしなければならない」と言い、また「グレイゾーン」のようなニュース記事は、「現在、大規模なニセ報道キャンペーンをやっているのだ」と言った。しかし彼は、メディア報道に対する、そのような主張を支持する、どんな証拠も示さなかった。

ヘイワードは、スコットランド政府からも注意人物にされている。彼は、マリウポリの産院の爆撃といわれているものを疑問とする記事を書き、また、シリアの指導者バシヤール・

アル-アサドは、西側が言うように、彼自身の市民をガスで殺したりしていないことを公表して、先週ウェストミンスターで、保守党議員 Robert Halfon から、「プーチンの残虐にとって便利な阿呆」と非難された。<https://www.dailymail.co.uk/news/article-10611891/We-crack-Putin-propaganda-universities-says-Zahawi.html>

教育長官ナディム・ザハウィは、ヘイワードのような大学人たちはすでに調査されており、彼らの大学には連絡されるだろうと言った。

「プーチンやその仲間は、この国の誰にも悪影響を及ぼし、彼らのニセ物語を買い付けている。私は繰り返すが、それはニセ物の危険な物語だ。だから我々はこれを強く打ち壊さねばならない」と、ザハウィは言ったが、そのやり方は説明しなかった。

ヘイワードは [Edinburgh Live](https://www.edinburghlive.co.uk/news/edinburgh-university-professor-says-not-23440579) に発言し、言論の自由が制限されることを恐れると言い、戦時には、両側の意見を聞くことが重要だと言った。

<https://www.edinburghlive.co.uk/news/edinburgh-university-professor-says-not-23440579>

「戦争のときは、計算の間違いが、恐ろしい結果を引き起こすことがある。我々はまた、ニセ情報が時には、自分自身の側に落ちてくることもあり、イラクが大量破壊兵器をもっていると信じて、イギリスが彼らに戦争を仕掛けたこともある」と彼は言った。「ウクライナの人々についていえば、彼らの要求は平和であって、第三次大戦の中心地になることではない」と彼は、もし西側諸国がウクライナに介入するようなことがあれば、その結果は3次大戦だという一般に考えられている信念に言及した。

[訳者 Greatchain 注]

ウクライナの国情を知らず、ロシアとの関係の知識もなく、ただ、ロシアにいじめられるウクライナが可哀そうだということで、岸田首相は**居丈高**になっている。この短慮は必然的に、わが国が世界から軽蔑され、疎まれ、憎まれる原因を作ることになる。現在すでにその兆候が出ている。欧州でもカナダでもないわが国に、ロシアを憎む理由は全くない。岸田氏と会見したインドのモディ首相は、丁寧に、しかしきっぱりと、日本との共闘を拒否した。賢明である。そもそもこんな微妙な国際的問題で、他国に共闘を呼び掛けること自体が無神経である。これをロシアが聞けば、日本との関係を断つと宣言するのは当然だろう。日本は世界で特別の立場にあり、調停者の役目を果たすべきだった。日本以外にその適任者はいなかった。ロシアも淡い期待をもっていたと考えられる。わが国の動き方一つで、北方領土が返ってくる可能性さえあった。

何より情けないのは、わが国政府が、トランプ大統領を含むアメリカ全体ならいざ知らず、腐敗したバイデン政権に忠誠を誓うように行動することである。これがどれほど危険で愚かなことかを、政府はわかっているのか？ ほんの昨日、バイデン氏が「いよいよ、アメリカは New World Order を国是として舵を切る、という意味のことを言った。この言葉はメディアが絶対にタブーとしているもので、新聞には出てこない。新聞に出てこないような言葉だから、取るに足らないものだと人々は思うのだろうが、実はこの世界全体が、誰にも気づかれず、NWO によって牛耳られているのである。新聞はどうするか知らないが、バイデンが「いよいよ本音を吐いた」。

これは端的に言えば、アメリカはこれから、共産主義・サタン信仰を国の柱として、一党独裁制を取るからそう覚悟せよ、ということである。これはごく少数の権力者と大金持ちの支配する国家である。バイデンはもっと前に、「私は自分がサタンの生まれ変わりと言われても平気だ」と言ったことがある。これは同じくらい恐ろしい発言である。のんきな人々は、サタンなんて、可愛いマンガのキャラクターぐらいに思っているだろう。そうでない恐ろしいことが「いよいよ」始まる。

そして今、彼らは、この共産主義・サタン信仰・一党独裁を公言して、何よりもまずロシアを滅ぼそうとしている。プーチンはこれを受けて立ち、孤軍奮闘している。プーチンは自国だけではない、世界を背負っている。彼らはグローバリストだからである。もし我々が愚かにも、協力してプーチンを倒すなら、我々はこの NWO 体制の奴隷として生きるよりほかなくなる。もしそれを知らずに、バイデン政権を支持し、「プーチン憎し」を唱える者がいたら、その者には、幻想から目覚めよと言うよりほかない。もしそれを知った上で、その行動を続けるなら、それは悪魔の一味だと言うべきだろう。

ところでこの記事は、ウクライナ戦争の実態をよりよく知るために訳したものだが、この実態を暴露することによって、あらゆる人々から叩かれているスコットランドの教授の立場を考えてみよう。彼がこれだけ叩かれるということは、彼の立場を逆にして利益を得ている者たちがいると考えねばならない。今、学者・専門家といわれる人々で、魂を売って、ヘイワード教授と逆のことをやってぼろ儲けしようと思えば、いくらでもやれる条件がそろっている。これは悪知恵を授けているのではない。もしあなたが、誰かの真似をしてそんなことをすれば、確実に地獄に墮ちるだけでなく、永遠に戦争がなくなるならないと言いたいのである。